

名前 ( ) 日づけ ( / ) できた数 ( /26)

**使い方** 書き下し文を声に出して読んでから、傍線の番号を手がかりに解きます。この話の山は「反語」と「部分否定」、そして相如の生き方です。

**あらすじ**＝武勇の廉頗が、口先だけの相如が自分より上の位にいることに腹を立てる。相如は争いを避け続け、その理由を「二人が争えば秦につけこまれ、国が危くなるから」と語る。それを聞いた廉頗はいばらを背負って詫言に行き、二人は生死を共にする仲となった。ここから「刎頸の交わり」という言葉が生まれた。

一次の書き下し文を読んで、後の問いに答えよ。

廉頗（れんぱ）曰（い）はく、「我趙（てう）の將と為（な）り、攻城野戦の大功有り。藺相如（りんしやうじよ）は①徒（た）だ②口舌（こうぜつ）を以（もつ）て勞を為して、而（しか）して位我が上に居り。」と。宣言して曰はく、「我相如を③見（み）ば、④必ず之（これ）を辱（はづかし）めん。」と。

（中略）

相如曰はく、「夫（そ）れ秦王の威を以てしても、相如之を⑤廷叱（ていしつ）し、其の群臣を辱む。相如⑥驚（ど）なりと雖（いへど）も、⑦独り廉將軍を畏（おそ）れんや。（中略）今⑧両虎（りやうこ）共に闘はば、其の勢⑨俱（とも）には生さず。吾の此（これ）を為す⑩所以（ゆゑん）の者は、⑪国家の急を先にして私讎（ししう）を後にするを以てなり。」と。廉頗之を聞き、⑫肉袒（にくたん）して荊（けい）を負（お）ひ、賓客（ひんかく）に⑬因（よ）りて、藺相如の門に至り罪を謝して曰はく、「⑭鄙賤（ひせん）の人、將軍の寛なることの此に至るを知らざるなり。」と。

卒（つひ）に相与（あひともし）に飲びて、⑮刎頸（ふんけい）の交はりを為す。

語注 攻城野戦＝城を攻め、野で戦うこと。口舌＝弁舌。言葉のはたらき。廷叱＝朝廷でしかりつける。驚＝のろい馬。転じて才能が劣ること（ここは謙遜）。両虎＝廉頗と藺相如のたとえ。私讎＝個人的なうらみ。肉袒＝上半身の衣をぬいで肌をあらわにすること。謝罪・降伏の作法。荊＝いばら。むちの材料。賓客＝客分としてかかえられた人。鄙賤＝身分が低くいやしいこと。卒に＝ついに。※（中略）＝廉頗の宣言を聞いた相如は病と称して朝廷に出ず、道で廉頗を見ると車を返して隠れた。それを恥じた家来たちがいさめたのに答えたのが、相如の言葉である。

A 語句と読み(1～7)

- (1) ①「徒(た)だ」の読みと意味を書け。
- (2) ②「口舌(こうぜつ)」とは、相如のどのような働きを指して言ったものか。
- (3) ③「廷叱(ていしつ)し」の意味を書け。
- (4) ④「驚(ど)」のものと意味と、ここでの働きを書け。
- (5) ⑤「肉袒(にくたん)して荊(けい)を負(お)ひ」の読みをひらがなで書け。
- (6) ⑥「因(よ)りて」のここでの意味を書け。
- (7) ⑦「所以(ゆゑん)」の読みと意味を書け。

B 句法(8～12) ※仮定・反語・部分否定・所以

- (8) ⑧「見(み)ば」の「ば」は何形に接続し、どのような意味を表すか。
- (9) ⑨「独り廉將軍を畏(おそ)れんや」の句法名と意味を書け。
- (10) ⑩「俱(とも)には生きず」は全部否定と部分否定のどちらか。理由もつけて答えよ。
- (11) ⑪「驚(ど)」を含む「相如驚なりと雖も」の「雖も」の意味・用法を書け。
- (12) ⑫「所以(ゆゑん)」を含む「吾の此を為す所以の者は、…を以てなり」の構文を説明せよ。

C 何を・誰を指すか (13～15)

(13) ④ 「必ず之(これ)を辱(はづかし)めん」の「之」は誰を指すか。

(14) ⑧ 「両虎(りやうこ)は何をたとえたものか。

(15) ⑭ 「鄙賤(ひせん)の人」とは誰のことか。またその言い方の効果を書け。

D 口語訳 (16～19)

(16) ①・②を含む「藺相如は徒だ口舌を以て労を為して、而して位我が上に居り」

(17) ③・④ 「我相如を見れば、必ず之を辱めん」

(18) ⑧・⑨ 「今両虎共に闘はば、其の勢ひ俱には生きず」

(19) ⑪ 「国家の急を先にして私讎(ししう)を後にする」

E 内容・記述 (20～23)

(20) ①の言葉から、廉頗のどのような不満が読み取れるか。「大功」という語を使って四十字以内で書け。

(21) ⑪「国家の急を先にして私讎(ししう)を後にする」とあるが、相如が廉頗を避けたのはなぜか。三十字以内で書け。

(22) ⑫「肉袒(にくたん)して荊(けい)を負(お)ひ」の行動は、何を伝えるためのものか。

(23) ⑮「刎頸(ふんけい)の交はり」とはどのような交友か。「刎頸」のもとの意味にふれて書け。

F 故事・文学史 (24～26)

(24) この話の出典の書名・作者・体裁を書け。

(25) この話の前編にあたる、藺相如が璧を守り抜いた故事の名を書け。

(26) ⑫「肉袒(にくたん)して荊(けい)を負(お)ひ」の行動からできた四字の故事成語を書け。

【テスト直前チェック】この三つ ①「俱には生きず」は部分否定。「両方ともは生きられない」＝どちらか一方しか残らない。 ②「独り～んや」は反語。「どうして廉將軍だけをおそれようか、いや、おそれない」。 ③主題は「国家の急を先にし、私讎を後にす」。記述問題の答えは、ほぼここに集まります。